



○令和2年・2020年のスタートです。「子年」の始まりです。
～ 東京オリンピック・パラリンピックイヤーの始まりです。 ～

みなさん、新年あけましておめでとうございます。令和2年・2020年が始まりました。この1年は、日本国内でも一大イベント、「東京オリンピック・パラリンピック」の開催があります。そして、教育現場でも大きな改革である新学習指導要領の完全実施がスタートします。教科書も新しくなります。

まさに記念すべき、記録すべき、記憶すべき、重要な一年となります。その始まりです。

さて、今年の干支は「子・ねずみ」です。十二支でなぜ、干支のいちばん始めが「子年」なのか、みなさん、御存知ですね。有名な話があります。そして、なぜ、猫がネズミをいつも追いかけて回すのか。その理由も、この話が説明してくれています。詳しくは、ここでは触れません。「子年」は、生命や植物が循環する様子を表している十二支の1番目に「子」がきているように、「子年」を植物にたとえると、新しい生命が種子の中に出来はじめる、息吹き始める時期で、新しい物事や運気のサイクルの始まる年になると考えられています。その意味で、まさに、記録すべき、記念すべき年でもあるわけです。新しい動きが始まるわけです。オリンピックイヤーにふさわしい干支でもあります。

ところで、この休みに昨年購入し、「積ん読」していた本を何冊か読みました。その中の一冊で、「FACTFULNESS・ファクトフルネス」という本があります。著者は、ハンス・ロスリング、オーラ・ロスリング、アンナ・ロスリングさんです。主著のハンス・ロスリングさんは、スウェーデンの医師で統計学者、公衆衛生の専門家として世界各地で活動され、世界各地の医療の現状から各国の実情を知っている方です。世界の医療環境は整備されていない国を支援する意味で、母国スウェーデンでは「国境なき医師団」を結成し、2012年には「タイム」誌で「世界で最も影響力の大きな100人」の中に選ばれた方です。その意志を受け止め・受け継ぎ、ハンス氏をサポートしてきたのが息子のオーラさん、その妻のアンナさんです。この3人の力で完成した本が、「FACTFULNESS・ファクトフルネス」です。しかし、この本が完成し、出版される前の2017年2月にハンス・ロスリングさんはすい臓癌で他界されました。癌と闘いながら、最後までこの本の原稿書きに向かっておられました。

この本では、いかに、私たちたちが思い込みや偏見、事実に基づかない判断に振り回されているか。その誤りや、その原因が丁寧に説明されています。

第2章に世界の次のようなデータが紹介されていました。

○「減り続けている16の悪いこと」として、①乳幼児の死亡率、②戦争や紛争の犠牲者、③核弾頭の数、④災害による死者、⑤飢餓、⑥児童労働、⑦石油流出事故、⑧オゾン層破壊物質の使用量、⑨HIV感染者数 など

○「増え続けている16の良いこと」として、①女性参政権、②農作物の収穫、③識字率(でも、86%)、④女子教育(でも、90%)、⑤安全な飲料水利用の割合、⑥1歳児の予防接種、⑦携帯電話所持(なんと65%)、⑧電気の利用(でも、85%) などなど

世界全体では、少しずつですが良い方向に向かっていると思えます。悪い報道は広まりやすいものだと思います。事実を正しく知り、事実に基づき、正しく判断していく。今の時代、この力がますます重要になります。子供たちが生きる2020年から先の時代は、更に今以上に、あふれる情報の中を、子供たちは生きていかなければなりません。その中には、たくさんのフェイクニュースがあるでしょう。一部を切り取ったような、真実ではない、作為的につくられ、悪意のある、そして、人をミスリードする情報や意見が溢れる時代が来ます。

ですから、子供たちには、事実を見極め、冷静に情報を読み解く力が、ますます求められます。

「FACTFULNESS・ファクトフルネス」の著書のなかでは、次の10のルールが大切だと紹介されています。

- ① 断言本能を抑えるには・・・大半の人がどこにいるかを探そう。案外大半の人は同じ場所に位置している。
- ② ネガティブ本能を抑えるには・・・悪いニュースの方が取り上げられ広まりやすい。良い出来事はニュースにならない。
- ③ 直線本能を抑えるには・・・直線はいつかは曲がる。増加ばかりではない。減少もやがてくる。いろんなパターンがある。
- ④ 恐怖本能を抑えるには・・・リスクを計算しよう。無駄におそれてはいけない。現実を見よう。
- ⑤ 過大視本能を抑えるには・・・数字を比較しよう。データを冷静に分析。比較をしよう。割合で考えよう。
- ⑥ パターン化本能を抑えるには・・・分類を疑おう。その分類自体が誤りかも。
- ⑦ 宿命本能を抑えるには・・・ゆっくりとした変化でも変化していることを心にとどめよう。小さな変化に目を向けよう。
- ⑧ 単純化本能を抑えるには・・・一つの知識が全てに適用できないことを覚えよう。一つの視点だけに頼らない。
- ⑨ 犯人探し本能を抑えるには・・・誰かを責めても問題は解決しない。犯人ではなく原因を探そう。
- ⑩ 焦り本能を抑えるには・・・小さな一歩を重ねよう。

年明け、これからの未来はどのような時代になるか。様々な悲観的な報道がされることもありますが、冷静に時代を見つめていきましょう。子供たちが生きる時代、そして、これからの日本や世界が、決して報道などで言われるほど悪いものでもないと思います。人々の不安を煽る先には、何が待っているか。

2020年東京オリンピック・パラリンピックイヤーが、きっとすばらしい年になると確信しています。そうなることを祈念しています。令和2年・2020年もどうぞよろしくお願いします。

○新学習指導要領に関して ～ 来年度の新教育課程では ～

昨年末、広報部より校長に新学習指導要領に関する質問があり、いくつか回答しましたが、既定の紙面を大幅に越えての原稿量になり、広報誌への掲載はどう考えても無理と当方で判断し、その中でも記載量も多くとり、保護者のみなさんに関心のあること2件について回答します。

他のことについては、今後、広報部と相談しながら掲載して頂きます。御理解・御承知ください。

Q1 英語教育はどうなりますか？

御承知のように八東小学校では、既に、3・4年で週に1時間の外国語活動、5・6年で週に2時間の外国語活動を実施しています。ですから、来年度になって授業時間が大きく変わるということはありません。現行のままです。既に新学習指導要領に対応しています。

今回、新しい教科書もできました。「**NEW HORIZON Elementary English Course**」という東京書籍の中学教科書の小学校版を、東部地域の小学校では活用します。この教科書では、中学校のような文法はありません。たくさんの英語表現に音や映像を通じて親しむ中で、英語への、外国語への興味・関心を育て、未来のグローバル社会に生きる子供たちの力を伸ばす、そんなねらいが教科書にも表れています。

5年6年の教科書の内容は、「**自分のこと、地域のこと、日本のこと、世界の国々、世界の中の日本**」というように構成されています。自分自身のことからスタートする学習の構成になっています。また、各ユニットも「**音に出会う・会話に慣れる・コミュニケーションを楽しみ・世界を広げる**」という流れで、学習が進められていきます。決して、文法ばかりの、がちがちの英語教育ではありません。学習の流れの通り、教科書では実にたくさんの英語の言葉・単語に音を通じて触れます。そのため、教科書とは別にそれらを整理する意味で、「**Picture Dictionary**」という単語と絵が書かれた本も用意されています（中には、QR CODEもあり、発音と文字にも触れられます）。もちろん、単語を書く活動もあります。今の中学校の1年での学習の先取りも、当然ながらあります。

しかし、こうした活動は既に、5・6年では英語専科の杉山先生やALTのニコール先生、そして、担任の先生も加わりながら、現在行っています。電子黒板を活用し音や文字に触れ、単語を書く活動も行っています。

来年度からの新学習指導要領のもとで八東小学校の英語教育（外国語活動・外国語科）が、今と大きく変わるわけではありません。現状の継続・充実・発展です。

Q2 プログラミング教育とは？

よくある質問で、「時間割にプログラミングという時間ができるのですか。」というのがあります。結論から言います。時間割に「プログラミング」という時間はできません。あくまでも、各教科の学習の中で「プログラミング教育」を進めていきます。「プログラミング教育」と言う言葉で良く誤解されるのが、「プログラミングの授業では、プログラミング言語の使い方を学ぶのですか。」という質問です。決して、Python Java Ruby等のプログラミング言語を勉強するものではありません。

従来の算数・社会・理科・総合的な学習の時間などの学習指導要領に例示されている内容でのプログラミング教育や、例示されてはいますが発展して指導するもの等もあります。

例えば、5年・算数でプログラミングで正多角形を描く。6年・理科で身の回りには電気の性質や働きを利用した道具があることをプログラミングを通して学習する。6年・家庭科で自動炊飯器に組み込まれているプログラムを考える活動を通して炊飯について学習するなど、今ある学習内容や関連付けたものを使い学習するものがあります。

そして、御存知の方もいるかと思いますが、猫のキャラクターでお馴染みのScratch（スクラッチ）などのようなプログラミング言語を使わないプログラミング的活動もあります。しかし、これはあくまでも教育課程内ですが、各教科とは別に実施するものですので、時間をたくさん確保はできません。

来年度から必修となるプログラミング教育は、「物事には手順が在り、手順を踏むことで、物事をうまく解決できる、その手順を論理的に考えていく力」、それを「プログラミング的思考」とし、その力を育成することを目指しています。決して、プログラマーの育成が目的ではありません。こうした学習の中で、パソコンやタブレットを使う場面もあります。そうした学習では、ICT支援員の方に協力して頂きながらICT活用も進めています。

また、プログラミングの授業では、毎時間、パソコンやタブレットを使うわけではありません。「**アンブラグド**」と言って、紙や鉛筆を使ったり、体を動かしたりして「**プログラミング的思考**」を学ぶ学習もあります。ですから、先進校では、1年生の算数の実践などもあります。「パターン（同じことのセット）」や「ループ（繰り返し）」を使っのアンブラグドの実践例もあります。

日々の生活や授業の中で、流れを見通し、そのために必要な手順や準備を整理し、イメージしながら考えていく力。個人的に思うのは、つまり、「段取り力」のように思います。スタートからゴールまで、様々な場面や条件を想定しながら、それに対する対応や対処を考え、ゴールへたどり着くための一連の「段取り」を考える。そんな教育活動のようにも思います。

「プログラミング的思考力」は、見通しが難しい時代に生きる子供たちに必要な力だと思います。

※これまでも総会などで話してきましたが、今後、機会を設け来年度の新教育課程についてもお話していきます。

【 12月に掲載できなかった児童表彰関係 】

○12月ノート賞

1年	川尻 慧悟	4年	林田 淳之介
2年	坂田 涼太	5年	山根 優菜
3年	川村 桂輔	6年	佐藤 パトリック

※紙面の都合で紹介が遅れました。